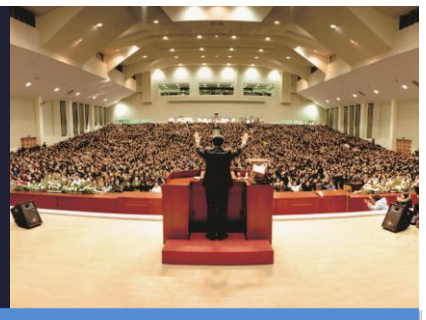
第 2019-11 号

恵みと真理のニュース



2019 年 03 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

急性心筋梗塞で倒れた夫を神様が癒してくださり、一生懸命に仕える聖徒として変化させてくださいました。

私が夫と結婚する前は夫はとても真面目に見えました。それで私は他の条件はまったく考えなくて結婚を決心しました。結婚して二人の兄弟を生みました。ところが、結婚をしてみると夫は職場を長く働けなくて転々と変えました。従って生活が不安定になり経済的に大変な時が多かったです。

私が初信者だった頃、心が不安になることに夫が安定された職場生活をするため切に神様に祈りました。すると神様は哀れんでくださり、夫をレミコンの会社に入社するように助けてくださいました。夫は会社に入ってから今まで３０年間誠実に勤務しています。

その当時、わたしは主日だけ教会に行くほど信仰が弱かったです。旦那はイエス様を信じなかったです。旦那は安定した職場を持つようになりましたが、世の友達と仲良くして浪費が酷くなり家庭の生活が豊かにならなかったです。最も私が教会に通うのをとても嫌がって婚家との葛藤は苦しかったです。

その時ことに区域礼拝に参席して聖徒達と交際するのが大きい慰めになりました。区域長と教区区域長が主の愛で私を助けてくださり、熱心に礼拝を捧げ集いに熱心に参席するように導いてくださいました。

ある日は、区域長が教会で聖霊充満の祈り会があるから参席して祈りましょうと誘いました。心と体はとても疲れている状態で参席しました。多くの聖徒達が集まって大きい声で賛美して声をだして祈りをする姿に感動を受けました。私も勇気を出して他人を意識しないで心を尽くして祈りました。賛美歌４０５番“われをも救いしくしき恵”賛美を歌いながら涙を流して痛い心で神様に切ない心で祈りました。この日、祈り会で真に神様に悔い改めました。わたしの全ての罪を赦してくださり、魂を救ってくださった神様の恵みで感激を受けて涙を流しながら感謝を捧げました。そして、礼拝を休まずにして神霊な賜物を求めて祈る中で聖霊を受けました。すると強く雄雄しくなって婚家の家族の迫害を恐れなくなりました。教会で礼拝を捧げて奉仕をして人々に伝道することが楽しくなりました。

婚家の家族にも大胆に福音を伝え始めました。そして、何よりも夫の変化を願いながら祈りました。夫にどんな変化もなくて落胆して神様の時を待って伝道して祈りを休まなかったです。数年がたって夫が教会に戻りました。続けて夫を礼拝を場で導きました。

そうするある日、２０１５年１２月２０日でした。旦那が運動する時急に倒れて病院にいると連絡を受けました。サッカをしている時急に病院に移され、緊迫な状況なので保護者がいないとどんな措置も出来ないとしました。私は走って病院に行きました。医者達は旦那が心臓停止の状態で病院に運ばれていま非常に危ない状態だと言われてすぐ手術を受けました。

状況がとても絶望的になりました。急に教区伝道士に連絡を受けて祈りを頼みました。手術を終えた医者達は旦那に脳の損失があるかもしれないので心を強くしなさいとしました。牧師と伝道士が他の訪問を後にして病院に来られて祈ってくださいました。神様の奇跡を信じ期待しましょうと勇気を与えてくださいました。私は癒しに関する御言葉を黙想しながら切に神様の恵みを求めました。教会で区域で多くの方々が祈ってくださいました。

起きる気味がなかった夫が７週ぶりに奇跡的に意識が回復されました。何回も危ない瞬間がありましたけどその時ことに私は聖殿に行って神様を仰ぎながら祈って神様が助けてくださって危機を脱せることが出来ました。その後、次の治療が良くなって退院しました。もう退院しても良いという医者の言葉を聴いて神様の恵みに感謝して我慢していた涙を一気に流しました。

退院した夫は新しい人になりました。その時から主日だけでなく平日でも休まずに教会の礼拝に参席しました。熱心に牧師の説教を聴き心を尽くして賛美し祈りました。区域聖徒達と楽しく交際もして心を尽くして区域礼拝もささげるようになりました。また外国人線教会で車奉仕もして日々信仰が成長しました。

夫は私がそのように願っていた男性区域長の職分を受けて区域を仕え伝道と奉仕に力を尽くしています。教会で夫婦が熱心に奉仕する姿がうらやましくて祈ったのが叶えられました。それだけでなく、去年の秋、区域長のセミナーで夫と私が当会長の牧師の前に立って伝道賞を受ける喜びも味わいました。ハレルヤ！神様に全ての栄光を捧げます。

私達の夫婦は人間の弱さを深く悟っていつもどこでも主だけ委ねるようになりました。主に全てを委ねる信仰を持つようになりました。私達の家庭を大きい危機から救ってくださり、夫の健康も回復してくださり神霊な生活をするように変化させてくださった神様に感謝と賛美を捧げます。これからの人生を相変わらず主を愛し真面目で忠誠した主の働き者として生きると決心します。

［信仰コラム］　原 因 と 動 機

"...そこで祭司長たちは，ラザロも殺そうと相談した。それは，ラザロのことで，多くのユダヤ 人が彼らを離れ去って，イエスを信じるに至ったからである。"（ヨハネによる福音書 12:9～11）

人がある決定を出したり、行動をするには原因や動機があるはずです。原因や動機に関して調べてみます。

第一、原因や動機は人間の生存と生活に決定的な影響を及ぼし、重大な結果をもたらす要素であります。

原因や動機がどうであるかは我が人間の幸福と不幸、興亡盛衰に決定的な影響を及ぼすので重要です。同じ対象や状況だとしてもそれを認識する人によって各々異なる原因や動機を提供することになりえます。ある人には試しに陥った原因だとしても心霊が強い信者はそれを却って鏡と警戒に知って教訓を得る原因に扱います。そしてより神様に頼って敬虔な生活に励む動機にします。本分に見ると対照的な二部類の人々がいます。イエス様が病んで死んだラザロを蘇らせてくださったので多くのユダヤ人がイエス様を信じました。しかし、大体サドカイ人で構成された大祭司長のグループでは今回の事件がイエス様とラザロを殺そうと図る原因と動機になりました。"ラザロのことで"多くのユダヤ人がイエス様を信じるようになった反面、"ラザロのことで"大祭司長達はイエス様とラザロを殺そうと決心して図りました。同じ対象と状況をおいていかなる原因と動機に扱うかということは各人が決定することで、それによる結果はその人の責任です。

第二、私達は多くの人々にイエス様を信じるようになる原因と動機を提供する者になるべきです。ラザロは多くの人々がイエス様を信じるようになる原因と動機を提供する役割をしました。ラザロの努力によってではなく、イエス様が彼を蘇らせてくださったからです。全てのキリスト人はラザロが敬虔したこと以上の神秘的な経験をした人々です。死んだ状態から蘇った人々です。罪過と罪で死んだ者達がキリストイエスによって神様の恵みで新な生命を得た者になりました。従って、キリスト人達がすべきことは私達が新な命を受けて生まれ変わった人になったことを人々に知らせることです。

第三、私達は他の人に不信仰の動機を提供したり、試しに陥らせる原因提供者になってはなりません。

カナンを探知した回し者の中で 10 人はイスラエルの民が試しに陥って神様を恨み、逆らわせる原因と動機を提供しました。民達に不信仰的な報告をした 10 人の回し者は神様が下された災いで死にました。そして民達は 38 年間を広野で迷い、エジプトから出る時に 20 歳以上の人はカナンの地に入られず、広野で死にました。他人の信仰を毀損させて他人を試しに陥らせる原因と動機提供者になることはとても悲劇的な事であり、その責任がごく思いということを教訓する歴史的な事件です。

第四、私達は他人に良い原因と動機を提供する者になると決心して行うべきです。

聖徒は他人に信仰と幸福と成功に有益な動機と原因を提供する人になろうと願って努力しなければなりません。皆さんは、落胆の中にいる人にどうしたら望みを持つように動機を提供するかを考えながら努力してください。主の事に励まない人にどうしたら主の事に献身奉仕するよう動機を提供するかを考えながら努力してください。不信者にどうしたらイエスキリストを信じるよう動機を提供するかを考えながら努力してください。

第五、'何が原因と動機になって生きていくか？'ということは私達の生活において最大の課題です。

大体に人々は肉親的な問題、経済的な問題、心的な問題解決を受けるための動機でイエス様に進んできます。歓迎することです。しかし、イエスキリストを信じた後には神様を敬って愛する動機が優先されるべきです。神様の光栄のために、主を喜ばせようとする動機が優先されるべきです。このような人より強くて知恵のある人はいなく、このような生活より幸いで美しい生活はありません。

皆さんは、優れた原因と動機を作り、他人に提供して、自分に適用することを持続的に発展させていってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

モーセ、アーロン、ミリアムの人本主義と神本主義

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

神の御旨に合致するよう考えて行なうことが神本主義です。一方、神の御旨とは異なると考えて行なうことが人本主義です。神本主義は神の中心であり、人本主義は人の中心です。聖書は、人がいつから、どうして人本主義に生きるようになったかを知らせています。また、神本主義で生きるのと人本主義に生きることを、具体的にそして詳細に知らせています。過去 2 週間にわたって神本主義に生きるのと人本主義に生きることを具体的に知るために、カインとアベル、ロトとアブラハムを比喩して見てみました。今日はモーセとアロンとミリアムについて見てみましょう。

ミリアムはアロンとモーセの姉であり、モーセはアロンの弟です。モーセが生まれる 350 年前、彼らの祖先ヤコブが家族を率いてエジプトに移住しました。当時ヤコブの子ヨセフがエジプトの総理でした。歳月が過ぎ去って、ジョセフについて知らないエジプトの王がヤコブの子孫、すなわち、イスラエルの子らをひどく虐待しました。イスラエルの子らがエジプトの王の苛政に耐えられず、神に叫びました。

神はモーセを選びして、彼にイスラエルの子らをエジプトから導き、出す任務を与えました。モーセはパロの娘の養子に養子られて王宮で育った教育を受けました。

40 年前、モーセは自分の同族のイスラエル人がエジプト人から虐待されるのを見て、そのエジプト人を打って殺しました。そのことにゆえ指名手配の対象になって王宮を離れてミデヤン荒野に逃げてきました。モーセはミデヤンの祭司エテロの羊飼いとなり、エテロの娘チッポラと結婚しました。歳月ははかなく流れモーセの年齢八十高齢になりました。モーセは、自分がこのようなヒストリと現在の年齢を考慮すると、自分は、イスラエルの民をエジプトから引き出すのに適任ではないと思いました。

ところが、神がモーセに命じていうのを**「さあ，わたしは，あなたを パロ につかわして，わたしの 民，イスラエル の 人々を エジプト から 導き 出させよう 」．**」としました。**「モ ― セ は 神に 言った，「わたしは，いったい 何者でしょう．わたしが パロ のところへ 行って，イスラエルの 人々を エジプト から 導き 出すのでしょうか 」**したので、神が「私はあなたと一緒にいる」と答えました。**「モ ― セ は 主に 言った，「ああ 主よ，わたしは 以前にも，またあなたが，しもべに 語られてから 後も，言葉の 人ではありません．わたしは 口も 重く，舌も 重いのです 」（出エジプト記 4:10）**といいながら拒む理由をしました。神はモーセに、**「それゆえ 行きなさい．わたしはあなたの 口と 共にあって，あなたの 言うべきことを 教えるであろう 」モ ― セは 言った，「ああ，主よ，どうか，ほかの 適当な 人をおつかわしください 」**とモーセが言いました。

すると そこで，主は モ ― セ にむかって怒りを 發して 言われた，「あなたの 兄弟レビ びと アロン がいるではないか．わたしは 彼が 言葉にすぐれているのを 知っている．見よ，彼はあなたに 会おうとして 出てきている．彼はあなたを 見て 心に 喜ぶであろう．あなたは 彼に 語って 言葉をその 口に 授けなさい．わたしはあなたの 口と 共にあり，彼の 口と 共にあって，あなたがたのなすべきことを 教え」としました。

この場面は、人本主義的なモーセの態度を明らかに示しています。神の御旨が明らかに知られているにも関わらず、モーセが神の御旨に反する自己主張をしました。モーセは、神が怒って話すのを聞いて気がつきました。自分がどのような誤りを犯したのかを知りました。自分の態度が謙虚ではなく、高慢だったのを知っていました。神を中心に考えていない自己中心的に考えたのを知りました。

モーセは神の御旨と能力よりも、自分の境遇と能力に執着していました。神の御旨を確実に知ると、自分の境遇と力は無視しなければなりません。モーセがその後ずっと神の思いと御旨のままに考えて行いました。そしてすぐにを屈服し、イスラエルを導いてカナンに向かって出発しました。途中、多くの困難があったが、モーセは、神の御旨と指示の通り完全に行いました。徹底的に神本主義に行いました。

イスラエルの民は、エジプトを出発し、シナイ山の下にとどまりました。神はモーセを山の頂上に呼んで十戒命をはじめ、いろいろの法律を言われました。モーセが神から言葉を受けて民に伝えたところ、すべての民が共に答えのを**「主が言われたすべてのことを私達が遵行いたします。」**としました。モーセは山を覆った雲の中に入り、山の上に登って、昼と夜 40 日をそこにとどまった。モーセが山から降りてくるのが遅延するのを報告し、民がアロンに押しかけて言った。

「立ち上がって、私たちを導く神を作りなさい。私たちをエジプトの地から連れ出したモーセはどうなったか、私たちは知ることができません。」としました。アロンは民の降圧に屈して、それらから受け取った金で子牛の形状の偶像を作りました。民が金の子牛の偶像の前でいけにえをささげながら座って食べて飲んで、立ち上がって踊りました。

神様がくださった十戒命の中の第 2 の命令は、あなたはあなたのために、偶像を作らずに、それらに仕えないでしなさい。神の御旨と命令が明らかにもアーロンは神の言葉と命令に逆らって、民の要求のどおり金で子牛の偶像を作って民が偶像を崇拝するようにしました。これにゆえ神の罰として、多くの人が死亡した。アーロンは神よりも多数の人々をもっと意識して恐れていました。彼は神本主義を捨てて人本主義で行いました。神の御心と言葉は捨てておき、多数の人の意や自分の一身上の有利な方を選択することは人本主義の行動に従うことです。

2 年後にイスラエルの民はシナイの荒野を離れて行進しました。民数記 12 章を見ればミリアムとアロンはモーセを誹謗した事件が記録されています。

アロンとミリアムがモーセがグースの女と結婚した事実を指摘して誹謗しました。モーセはチッポラが死んだ後グース女を妻に受け入れたのです。ミリアムとアロンはモーセが異邦の女と結婚したのは、神の選民であるイスラエルの民としてふさわしくない仕打ちだと思いました。

神はイスラエルの精神的な純粋性を保つようにカナンの七つの部族とは通婚を禁止したのです。すべての異邦人との結婚を禁止したではないです。もしモーセが神の御旨に逆らって行ったであれば、神は沈黙なさらないしよう。

「ミリアムとアロンはモーセを誹謗した」と記録しました。これはミリアムがモーセの誹謗を主導したことを示しています。アロンはミリアムの言葉に同調したのです。ミリアムとアロンは、**「主はモーセだけで言われたか、私たちにも言ってしないですか」**と言いました。ここでミリアムとアロンはモーセを誹謗した根本的な動機が明らかになります。その誹謗は醜い名誉欲と自分に比べて優れたモーセの地位と優れた権威に対する妬みから始まったものでした。神は突然モーセとアロンとミリアムを呼ばれました。神は雲の柱のうち、降臨して天幕の入口に立って、アロンとミリアムを呼んだのでその二人が出て来ました。

そして、神は言われた。**「あなたがたは，いま，わたしの 言葉を 聞きなさい．あなたがたのうちに，もし，予言者があるならば，主なるわたしは 幻をもって，これにわたしを 知らせ，また 夢をもって，これと語るであろう．しかし，わたしのしもべ モ ― セ とは，そうではない．彼はわたしの全家に 忠信なる 者である．彼とは，わたしは 口ずから 語り，明らかに 言って，なぞを 使わない．彼はまた 主の 形を 見るのである．なぜ，あなたがたはわたしのしもべ モ ― セ を 恐れず 誹謗するのか」（民數記 12：6~8）**神はミリアムとアロンに怒りして離れ去ったのです。雲が天幕の上にあって、ミリアムがハンセン病にかかって雪のように白くなりました。アーロンはハンセン病が発症していない理由を二つに考えています。アロンはモーセを誹謗する主動ではなかってミリアムに同調したものからでしょう。あるいは祭祀を主導する職責を担っていたため、その職責の不正を防ぐためだったようです。

モーセは、最初に自分の考えや意で神の御旨と命令についての理論を出しましたがそんな態度が、神を怒らせているのを悟った後には、神の御心と言葉に完全に順応しました。アロンとミリアムは、私たちが神を前提にして検討して行なわなければ、ややもする人本主義で行動する危険があるのを示す反面教師になった。世論を追従したり、自分の推測で結論をしないようにします。神の言葉に分別する手順を省略すると、人本主義で行なう過ちを犯しやすいです。人本主義として考えて行なえば成功と思うようでも、最終的には失敗しています。勝利と同じようでも、最終的には崩壊します。幸せ同じようでも、最終的には不幸です。一方、神本主義で考えて行なえば失敗と同じようでも、最終的には成功しています。 失敗と同じようでも、最終的には勝利です。不幸と同じようでも、最終的には満足しています。聖徒の皆さんは、すべてのことに神の御旨と言葉に合致するように行してをください。